

葉山ヨットクラブの成り立ち調査

HYC 沿革調査 豊島邦太氏 ヒアリング

2012/5/21

参考情報として、昭和初期より葉山燈摺港で活動を続けておられた豊島邦太氏を訪問し、以下の通りヒアリングを行った。

日時： 2012年5月21日(月) 午後2時-4時
場所： 鎌倉・稲村ヶ崎 同氏ご自宅
訪問者： 葉山ヨットクラブ伊神顧問、真野理事、長尾理事

豊島氏略歴 大正 10 年(1921)生まれ(91 歳)
湘南ヨットクラブ会員(昭和 11 年(1936)名簿)
葉山ヨットクラブ創立メンバー

1. 湘南ヨットクラブ

Q: 昭和11年(1936)8月(調)「湘南ヨットクラブ会員(以下 SYC)名簿」の意義

A: SYC としてはこれより前から活動していたが、そのうちに名簿の必要性が出てきて、苦勞してこの時点でまとめたもの。この時にクラブを発足させたということではない。父の会社に頼んで活版印刷をしたという記憶がある。17歳のときである(数え年 16 歳、満 15 歳のはず。あるいは生年が 1920 か)。

Q: 「(名簿の3年前の)昭和8年湘南ヨットクラブ発足か」との情報があることについて

- ・ A: いつ発足させたかは、詳しくは覚えていない。また、関連資料も思いつかないが、発足はそのころかもしれない。少なくともこのころ発足したと考えても異論はない。

2. 湘南練成会

Q: SYC との関係

A: 戦時中「ヨット」と言う語は敵性用語として使用禁止になったので、会名を替えたもの。

Q: 終戦時の燈摺港の状況

A: 終戦後は燈摺港の船は全て接收され、横浜に持ってゆかれた。一時全く船が無くなった。

燈摺港は、進駐軍のモーターボートが旧港の北側を独占使用していた。

その後、再びSYCメンバーがヨットを新造、又は購入して燈摺にヨットが戻ってきた。

3. SYC 復会

Q: 昭和26年(1951)8月 SYC 復会の呼び掛けから、同37年(1962)5月の HYC 役員決定の情報までの間については、いろいろな資料を探したが HYC の名が記録に出てこない。復会後の SYC はいつ頃まで活動していたか。

A: 明確ではない。

4. 葉山ヨットクラブ(以下 HYC)

Q: HYC はどのような形で発足したか。SYC からの継続性はあるのか、

A: 具体的な発足時点は覚えていない。しかし、旧 SYC のメンバーであった3名、すなわち山口四郎(SYC 会長)、財部実(のちの旧 HYC 会長)、と自分(旧 HYC 事務所)でその移行に係っていた記憶はある。

また、SYCという名称から、葉山を拠点にセイリングをしているという事から「葉山ヨットクラブ」への名称変更の議論があった記憶もある。

Q: 活動の状況

A: 山口氏の考えは、ヨットクラブは基本的には個人が会員、というものだった。(実際には戦後企業の保養所などが増えたことの影響等で法人が所有する艇が増え、なかなか活発化しなかった、の意)

Q: クラブ旗

A: クラブ旗のデザイン(黄色字に黒の十字)は、SYC のものを引き継いだ。現在 NPO-HYC が使用しているものと同じ。ただし、そのころの旗には HYC の文字はなかった。

5. その他

- ・ 豊島さんがヨットに乗っていたのは、もっぱら鎧摺である。たまに横浜ヨットクラブに行った。
- ・ 初期のころの鎧摺港は、築港と呼ばれていた。
- ・ 豊島さんが鎧摺バス停前に住んでいた、鈴木ポートサービスの2Fで喫茶店の様なことをしていたのは、昭和35年前後数年間(息子さんが2歳の時から始めた)。山口さんに、鎧摺周辺に、飲食の場所が無かったので、近くに住んでいる豊島さんに依頼されたとの事。奥様と一緒に週末のみの営業でメニューはコーヒーとコーラ、カレー等があった。



左から、真野、豊島、伊神

以上